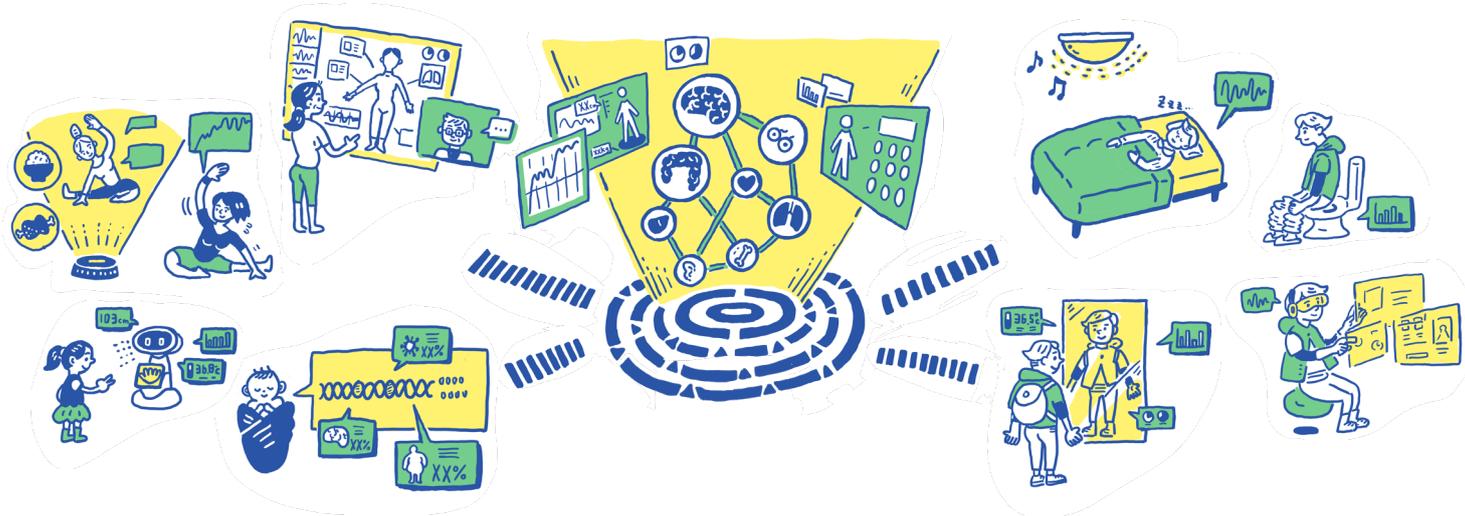


人生を通じて、1日を通じて、体を「定点観測」



データを取り続けて精度を高める

生まれ持ったゲノムの情報、子供時代の成長や発達の様子も含めて、健康な時（未病の状態）から体の様子を「定点観測」しておくことが重要だ。多くのデータが全身ネットワークシミュレーターに集まれば、ゲノム情報と各種データの傾向から病気を予測する精度が高まるだけでなく、病気を発症しないための薬や予防法の開発にも役立つ。2050年には、全身ネットワークシミュレーターとの日々の情報のやりとりを通じて、人々は健康寿命を伸ばし、人生100年時代を健やかに過ごすことができるようになる。

日常で使う様々なものがセンサーに

血圧、体温、血液だけでなく、睡眠の質や腸内細菌の種類が病気と関係していることがわかってきた。2050年の社会では、身に付けるものや家具、トイレにもセンサーが搭載されて、体に関するデータを日々収集して全身ネットワークシミュレーターに送るようになる。また、シミュレーターと連携する家電が、体の状態に合わせて適切な運動や食生活をアドバイスしてくれるたり、ストレスが溜まったり睡眠の質が悪くなった時には、照明やBGMを自動で調節して体調を整えてくれるかもしれない。